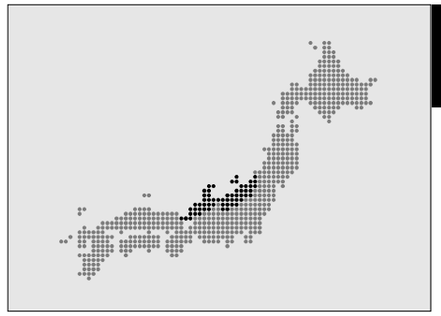
これで全国のブロックで大会が開催されることになる！

大会プレビュー



第1回全北陸大会

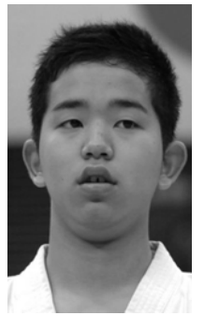
2014年9月21日◎新潟市東総合スポーツセンター

アクセス　電車　JR白新線「東新潟駅」下車徒歩25分
　　バス　新潟駅南口発木戸病院線「はなみずき」下車徒歩3分

北陸ブロックで新たなブロック大会が開催されることになった。
これで新極真会の組織としては、日本国内
すべてのエリアでブロック大会が開催されることとなる。
その道すじは確実にフルコンタクト空手の
オリンピック化につながっている。

注目選手

小林佑次
（福井中央支部）

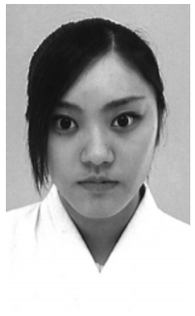


和田欣大
（千葉南支部）

長谷川翔平
（千葉南支部）

平賀斉彦
（東京城南川崎支部）

兼光秀治
（兵庫中央支部）



長谷川梨佳
（埼玉武蔵支部）

砂川久美子
（お茶の水道場）

入来勇斗
（東京城南川崎）

入来拓夢
（東京城南川崎）

鶴巻　学
（新潟支部）

「体協加盟のためには全国のブロック大会開催が必須です」

大会主催者
古川　章 師範
（新潟支部　支部長）

――「全北陸大会」として新たなブロック大会が開催されます。開催に至った経緯を教えてください。

「新潟支部では昨年まで『新潟空手道選手権大会』を主催していたのですが、昨年は10年という節目をむかえました。そしてJFKOも設立され、フルコンタクト空手界にも大同団結の動きがでてきました。オリンピックに参加するにはまず、体協に加盟するのが重要なポイントとなります。JFKOにおいて新極真会がリーダーシップを持っていく中で、ブロック大会の充実は必須です。しかし新極真会では全北海道、東北、全関東、全中部、全関西、全中国、全四国、全九州と開催されていますが、北陸だけはとり残された状態でした。組織の一員として、また一つの使命として『この状態を何とかしなくてはいけない』と考え、小井泰三事務局長に相談したところ、『やってみてはどうですか』というお話をいただきました」

――「新極真会の組織としてのくくりでいう『北陸ブロック』は新潟県のほかにどこですか。

「新潟県、富山県、石川県、福井県の4県です。今回、全北陸大会を開催することによって、新極真会の組織としては日本全国でブロックレベルの大会が開催されることになります。また、来年は北陸新幹線も開通します。そして今年は極真空手ができてから50年、大山総裁が亡くなられて20年、JFKOが発足して第1回の統一大会が開催されました。そして新潟の大会は11年目など、今年はいろいろなものの節目なんです。だから『今このタイミングしかない』と思い、開催を決意しました」

――全北陸大会が開催されることによって、どのようなことが起きるのでしょうか。

「県大会、ブロック大会をしっかり確立させることは体協加盟の条件として必須です。JFKOとして体協に加盟するためにも新極真会がブロック大会、県大会をしっかりと確立させなくてはならないのです。そのために型や団体型の試合も開催し、小中高校生の体重基準もドリームカップに階級を合わせています。ですから全北陸大会の開催は、体協加盟に少し近づくかもしれません」

――大会の資料を見ると「第11回新潟空手道選手権大会」を兼ねるようですが。今後の新潟の県大会はどうなるのでしょうか。

「新潟支部としては毎年6月に『新潟県空手道交流大会』を主催しています。その部分で県レベルの大会は新潟空手道選手権大会の他にも開催しています。

――『新潟県空手道交流大会』が今後は県大会になるということですか。

「そのあたりは今後の流れを見て臨機応変に対応していきたいと思います。たとえば今後、富山や福井の道場が規模を拡大して、大会を開催できる力をつけたら、全北陸大会を持ちまわりで主催するということも視野に入れています。そのような形にしたほうが、各県も地域の活性化になります。ただ現状は県レベルの大会を開催できているのは4県のうち新潟だけなんです。早く新潟以外の県でも県レベルの大会が開催できるようにしなくてはいけません。そういった後押しの意味も含め、今大会は開催されます」

――全北陸大会を開催することで、北陸4県のフルコンタクト空手界が活性化するということですか。

「そうですね。それがまた日本全国のフルコンタクト空手界の活性化にもつながると思いますし、JFKOにおける新極真会の使命でもあると考えます」

――ちなみに北陸におけるフルコンタクト空手界の現状はどのような感じなのでしょうか。

「富山県はJFKO副理事長である小井義和先生の極真会館小井道場、石川県は浜井識安先生の極真会館浜井派に力がありますね。でも新極真会としても各県に支部があり、毎年、県大会を開くというのが理想です。そのあたりはJFKOとのつながりもありますので、横のつながりを保ちながらやっていかなくてはいけないと思います」

――今大会には他流派の出場もあるのですか。

「もちろん出場のオファーはJFKO関係含め、100団体くらいにかけました。おかげでかなり実績のある選手からの参加の申し込みもありました。とても第1回の大会とは思えないような熱い闘いが期待できると思います」

――体協加盟も現実味を帯びてきそうですね。

「オリンピックや体協加盟という目標もありますが、武道や空手は日本の伝統文化です。大切な文化として育てていくのも我々新極真会の使命だと思うのです」

新しいブロック大会が開催される運びとなった。その名も「全北陸空手道選手権大会」。開催の経緯に関しては古川師範のインタビューをご覧いただくとして、まずは有力な出場予定選手をご紹介する。

まず一般無差別級。優勝候補は2013年全中部大会優勝の兼光秀治（兵庫中央支部）、2014年全関東大会3位の平賀斉彦（東京城南川崎支部）あたりか。そこに長谷川翔平（千葉南支部）や2013年の新潟大会準優勝の小林佑次（福井中央支）、若手では2014年全関東大会高校重量級準優勝の和田欣大（千葉南支部）がどう絡んでくるか。そして地元新潟の意地を見せて欲しいのが新潟支部師範代の鶴巻学。

一般軽量級の注目は2012年新潟大会優勝の入来拓夢、2013年福島県ウエイト制大会優勝の入来勇斗の東京城南川崎支部コンビ。

女子はベテランでお茶の水道場責任者の砂川久美子と長谷川梨佳（埼玉武蔵支部）の激突が予想される。

各階級とも予断を許さない。初代全北陸王者は一体誰だ!?